

日本音楽知覚認知学会平成 25 年度第 1 回理事会議事録

日時：平成 25 年 5 月 25 日（土）10：30～12：40

開催場所：岡山大学教育学部（津島キャンパス）北音楽棟 3 階ホール

出席者：大浦容子、小川容子、中島祥好、高橋範行、谷口高士、津崎実、星野悦子、三浦雅展、荒川恵子、大串健吾、芋阪満里子、重野純、菅千索、中田隆行、羽藤律、福井一、古矢千雪、森下修次、山崎晃男、岩宮眞一郎

オブザーバー：吉野巖、饗庭絵里子、安井希子、

報告

1. 会員状況報告

高橋範行常任理事(学会事務局担当)から、以下の通り報告された。

会員総数は 265 名（平成 25 年 3 月 31 日現在）で昨年同時期に比べ 2 名減。

会員内訳は、名誉会員 2 名、正会員 238 名、学生会員 25 名。

2. 平成 24 年度事業報告

大浦容子会長から、以下の 4 点が報告された。

(1) 研究発表会開催

春季研究発表会は九州大学（世話役；岩宮眞一郎先生）で 6 月 16 日、17 日に、秋季研究発表会は東京芸術大学（世話役；亀川徹先生）で 11 月 10 日、11 日にそれぞれ開催された。

(2) 学会賞授与

春季研究発表会での研究選奨受賞者は森数馬氏（広島大学大学院総合科学研究科。題目：「音楽聴取がもたらす鳥肌感および涙感に伴う情動反応と自律神経反応」）。

秋季研究発表会での研究選奨受賞者は「該当者なし」。

(3) 学会誌『音楽知覚認知研究』発行

17 巻 1・2 号合併号(2011)、18 巻 1・2 号合併号(2012)の 2 巻が発行された。

(4) 会則・規定の改正・整備について

以下の改正・整備が平成 24 年度第 2 回理事会で承認された。平成 25 年度総会での承認を経て施行。

- ・会則に副会長の人数を 2 名と明記
- ・学会誌投稿規定に電子投稿についての記載を加える。

3. 平成 24 年度決算報告

高橋範行常任理事（学会事務局担当）から、昨年度の日本音楽知覚認知学会（一般会計）収支ならびに日本音楽知覚認知学会（国際活動支援基金）収支について報告された。

4. 平成 24 年度監査報告

会計監査を行なった岩宮眞一郎監事より、適正に収支決算がなされていた旨報告された。平成 24 年度決算報告は了承された。

5. 学会アーカイブの進捗状況について

WG チーフの桑野園子理事作成の資料に基づき、大浦会長が進捗状況を報告。

6. 平成 25 年度春季研究発表会研究選奨選考委員の委嘱

小川容子副会長（学会賞担当）から、平成 25 年度春季研究発表会研究選奨選考委員の委嘱を行ったことが報告された。

7. 日本音楽知覚認知学会役員選挙結果について

重野純理事（選挙管理委員長）から、次の会期（2年間）の役員選挙の結果が報告された。次期会長：星野悦子氏、次期副会長：小川容子氏・山崎晃男氏、次期理事は23名である。総会の議を経て新役員が決定する。あわせて、選挙管理委員会から選挙管理規定作成担当の谷口常任理事に、次回の理事会に向けて検討が必要と思われる点を伝えた旨、報告された。

8. その他

(1) 三浦雅展常任理事から、Musicae Scientiae vol.17-1 のアブスト翻訳を若手7名に依頼し、SAGE web上でアップロード済みである旨、報告された。

(2) 三浦雅展常任理事から、International Symposium on Performance Science (ISPS)は2015年8月に京都で開催予定（実行委員長は三浦雅展先生）である旨、報告された。

(3) 中島好祥副会長（国際渉外担当、APSCOM副会長）から、APSCOM2017の日本での開催について2014年春までに決定する必要がある旨、改めて報告された。

(4) 大浦会長から、今後一層負担が大きくなることが予想される学会HPならびに学会MLの管理については担当理事（現在1名）を増やす必要があるとの提案があり、個人情報管理の問題の生じない学会HPのサーバ外部移転の可能性と担当理事の増員について検討することが承認された。

議題

1. 平成25年度事業計画

(1) 研究発表会について

谷口高士常任理事（研究発表会担当）から、春季研究発表会は岡山大学（世話役；小川容子先生）で5月25日26日に開催、秋季研究発表会は東京情報大学（世話役；西村明先生）で11月9日、10日開催予定である旨報告された。

(2) 学会誌『音楽知覚認知研究』発行について

津崎実常任理事（学会誌編集担当）から、今年度分の学会誌2回発行の原稿の目処が立った旨報告された。

2. 平成25年度予算案

高橋範行常任理事（学会事務局担当）から、今年度の予算案が提出され、了承された。なお、今年度の予算案には昨年の第2回理事会決定の学会誌出版積立金（2,336,600円）が計上されている。

3. 会費未納者の扱いについて

高橋範行常任理事（学会事務局担当）から、平成24年度第1回事理会で3年の会費未納が報告された11名の会員のうち、再度の請求後も会費の納付がなかった6名（正会員4名、学生会員2名）を、年度末である平成25年3月末日で除名とした旨報告された。平成25年3月末日現在で会費が4年以上未納（平成24年度は例外的に2回会費請求を行ったため、通常3年度以上未納のところを今回に限り4年以上未納とする）となっている会員15名については再度請求を行い、会費納入が無い場合は今年度末の平成26年3月末日をもって除籍とする旨が報告了承された。

4. 選挙管理規定の整備

谷口高士常任理事（研究発表会担当）から、選挙管理規定で会長及び理事の当選の基準等の記載の検討が必要であることが報告され、当選の基準を定める際の分母として有効投票数を用いることが承認された。

5. その他

(1) 大浦容子会長から、①vol. 15, vol. 16の2巻を対象とした論文賞の選考、ならびに②vol. 17, vol.

18の2巻を対象とした論文賞の選考に入ることが提案され、了承された。

- (2) 大浦容子会長から、日本学術会議に同会議協力学術研究団体としての申請をすることが提案され了承された。これまで学会誌の発行が遅れていたために申請できなかったが、学会誌発行が順調に進んでおり、会員数などの条件も満たしているため、直ちに申請手続きに入る。
- (3) 学会誌掲載論文の学会HP掲載について著作権上の問題がどうか、個々の論文について検討を始めることが承認された。
- (4) 津崎実常任理事（学会誌編集担当）から、編集旅費の提案があり、3年の期限付きで学会誌刊行費の範囲内での旅費支出を認めること、3年後に効果を検証しその後の対応を決めることが承認された。